

立ち読み版

「松坂世代」の元プロ野球選手が事業家に転身
（待動と失敗から学ぶ「トライ・アンド・ラーン」）



Interview

合同会社 Baseball Surfer 代表
元プロ野球選手／元総合格闘家

ふるき

かつあき

古木 克明 さん

プロフィール：1980年、三重県松阪市生まれ。1998年、横浜ベイスターズ（現横浜DeNAベイスターズ）ドラフト1位入団。2007年、オリックス・バファローズ移籍。2009年、シーズン終了後に現役を引退。引退後は格闘家に転向する。2013年に、米独立リーグのハワイ・スターズに入団し、1シーズンのプレーのち引退。2014年に事業構想大学院大学に入学し、2016年にMPD（Master of Project Design／事業構想修士）を取得。2017年1月、The Baseball Surferのブランドを立ち上げる。

【取材・文】 町中 悟 中小企業診断士 【写真】 堂田 恵耶 中小企業診断士

Interview >>> Katsuki Furuki



Introduction

古木克明さんは、1998年、横浜ベイスターズ（現横浜DeNAベイスターズ）にドラフト1位で入団した。松坂大輔さんと同世代のいわゆる「松坂世代」だ。2003年には、キャリアハイとなるシーズン22本の本塁打を記録。守備でのエラーが多く、チャンスに弱い面がある一方、球界を代表する好投手からホームランを多数放つなど、良くも悪くもファンの期待を裏切る意外性のある選手だった。

引退後は格闘家に転向。その後、再びプロ野球界への復帰を試みるという生き様でもファンの耳目を集めた。今はオリジナルブランド「The Baseball Surfer」を立ち上げ、事業家として活躍している。そんな古木さんの活動力の源泉にフォーカスを当て、話を伺った。

人の観点を吸収する

——「The Baseball Surfer」の主な事業内容を教えてください。

野球教室事業とアパレル事業です。

野球教室は、小学校低学年から中学生を対象に少

人数制で指導しています。野球を楽しんでもらいながら、好きになってもらうことを大切にしています。「好きという気持ちを忘れたら上手くなれないよ」と、いつも伝えていきますね。指導法としては、教えられて改善点に気づくのではなく、生徒自らが気づけるよう工夫しています。

アパレル事業は、ファッションを通じて日本の野球をもっとかっこいいスポーツにすることを目的としています。たとえば、ファッション性を求めてニューヨーク・ヤンキースの帽子をかぶっている人を見かけても、日本のプロ野球チームの帽子をかぶってオシャレをする人は少ないですよね。野球のイメージをファッションから変えたいと思っています。事業の独自性は、元プロ野球選手が手づくりしている点です。仕入も加工も販売も、すべて私一人で行っています。ブランドロゴはシルクスクリーンで印刷していますよ。デザイン性についても、お客様に響くものを日々、研究しています。

——野球教室とアパレル以外にも、さまざまな活動をされていますね。

少年野球の監督や、車椅子ソフトボール、プロ野球独立リーグの解説、各種イベントへのゲスト参加、講演活動、オンラインサロン、パーソナルトレーナーなどを行っています。

コロナ前は、地域貢献として湘南のビーチで“朝活”をしていました。親子で参加できる早朝のキャッチボールです。野球を通して親と子が交流できる機会を作りたいという想いがある、無償の定期イベントを開いていました。趣旨に賛同してくださった地元企業の方々にもご協力いただきました。結果的に、良いブランディングになったと思っています。

——車椅子ソフトボールをやってみようと思った理由は何でしょうか。

障害を持っている方の目線を知りたかったためです。人の気持ちを理解するには、その人の視点に立